

日本橋梁建設協会における技術者育成の取組（みかんプロジェクト） その2

（一社）日本橋梁建設協会 戦略広報WG

○正会員 白石 薫 阿部 賢太朗 駒井 翔 田向 史隆 富樫 晋平 今村 明登 斎藤 秀樹
正会員 竹嶋 夏海 高橋 佳恵 逸見 茜 長瀬 雅司 中村 将章 後藤 鮎夏 井上 大地

1. はじめに

（一社）日本橋梁建設協会（以下 橋建協）は、昭和39年の発足以来、鋼橋の建設を通じて社会に貢献することを目指し、鋼橋の長寿命化推進・技術伝承・人材育成・啓蒙活動などについて取り組んでいる。これらの取組のうち、鋼橋の一般への周知活動を戦略広報WG（通称みかんPJ）にて2019年度から行っており¹⁾、本稿では2020年度の活動実績を報告する。

2. 戦略広報WG骨子

- 1) WG構成：公募による協会加盟会社12社12名の若手社員にて実施（その他運営メンバーあり）
- 2) 活動状況：2020/7～2021/6の期間で月1回定期的に集まり、リモートも併用してWGを開催
- 3) 活動方針：「人材を確保するために、橋梁業界の興味・認知を向上させる広報戦略を提案する」
ことを目途に、ファシリテーションのスキルを活かし検討を行う



写真-1 活動の様子

3. 活動内容

1) 2019年度合意事項

2019年度までに決定したターゲット・PRポイント・手段を以下に示す。

ターゲット：中学生・高校生

PRポイント：「カッコイイ」「デカイ」「オーダーメイド」「社会貢献ができる」「街のシンボル」

手段：SNSの活用、イメージキャラクターの考案・活用、タグラインの作成・活用

2) 活動状況

（1）SNSの活用（橋建協公式 Instagram、Twitter）

2020年2月に公式として運用を開始した Instagram は、各委員が月1回以上投稿することを目標に分散投稿を行っている。その結果、フォロワー数は1450人弱（2021年3月22日時点）となり、前年と比べて約1200人の増加となった。2021年1月～2月に開催した「橋の写真コンテスト」で約200人増加（応募数400以上）しており、今後も随時企画を行っていく方針である。また、中高生への発信範囲拡大および Instagram との相乗効果を図るために、2020年11月に Twitter を開設し、2021年2月に公式運用となった。Twitter の投稿内容・方針の検討を進めて、Instagram との差別化を図る。

（2）イメージキャラクターの活用

前年度作成したキャラクターの名前を検討し、「ケン・ブリッチくん」に決定した。その他詳細設定
キーワード 橋と社会 普及・啓発 育成・継承 ビジネス 橋のあり方

連絡先 〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11（一社）日本橋梁建設協会 TEL03-3507-5225

も検討を行っており、一部は Instagram²⁾にて紹介している。また、シールや LINE スタンプなどの新規グッズ作成や、他社とのコラボ製品となる LaQ (パズルブロック) やぬいぐるみの製作にも取り組んでいる。他、小学生向けの図鑑本作成などによるキャラクター展開なども行う予定である。



写真-2 Instagram 紹介



図-1 ケン・ブリッチくん

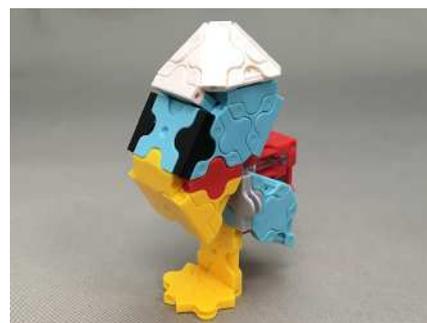


写真-3 LaQ 完成写真

(3) タグラインの活用

2019 年度提案した「架ける つなぐ 支える」は業界内外への周知を図るため、名刺の協会マーク下へ追加することとした。また、一般の方が親しみを持てるように、協会ホームページ内に当WG活動ページを新設し、タグラインコンセプトの記載を予定している。

(4) その他、周知活動

上記3つの取り組みの他に、各種イベントへの参加やWGの周知活動を行った。概要を以下に示す。

- ・学校向業界紹介 (正智深谷高等学校/木更津工業高等専門学校/明石工業高等専門学校/秋田大学)
- ・協会ホームページ内にWG活動ページ作成
- ・業界紙 (日刊建設工業新聞、技士会だより) への寄稿
- ・雑誌「東京人」による取材対応
- ・狭山池博物館やインフラテクコンなどのイベント参加
- ・他土木広報活動団体との意見交換、討論会への参加
- ・i-Bridge ロゴ作成



図-2 i-Bridge ロゴ

3. 終わりに

2019 年度までの活動を評価され、橋建協から会長特別賞を表彰いただいた。協会内でも活動内容を評価いただき、委員一同より一層身の引き締まる思いである。活動に対する所感を以下に示す。

- ・提案したコンテンツを運用し、成果を得られた
- ・リモートツール (Zoom) を用いた画期的なWGを開催し、コロナ禍においても積極的な活動を行うことができた
- ・鋼橋の魅力発信を通じ、自らの仕事の意義を再認識できた
- ・対面イベントの中止が多く、一般へ周知する機会が少なかった
- ・WG内活動は活発だったものの、委員所属会社を含めた協会各社への周知や、活動への巻き込みが十分ではなかった

最後に、橋建協の方々をはじめとして支えていただいた関係者の皆様に、深く御礼申し上げます。



写真-4 表彰式の様子

4. 参考文献

- 1) 井上ら：日本橋梁建設協会における技術者育成の取組み (みかんプロジェクト)、土木学会年次学術講演会、CS7-04、2020.9
- 2) Instagram、<https://www.instagram.com/p/CHtoRFKgzcl/?igshid=lrdzhidsvbn2j>、2021.3.16 閲覧